とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)郵便番号089－37 北海道足寄町 とかち新聞社
毎月25日発行 購読料 一カ月200円 一カ年前納2,000円

自信と責任と勇気を

コンサートで訴え

北海道厚生年金会館での三月十三日から松山千春の春のコンサート「魂、燃やす時」がはじまりました。

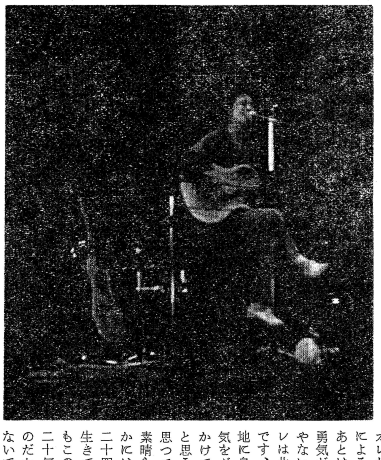
その札幌公演のもようはオープニングの「恋」からつづいて、高校時代の思い出に「シバの女王」と「サヨナラをするために」を「おいで僕のそばに」「初恋」「銀の雨」「ひとりじめ」「春の足音」で一部をおわり二部に入ってから「MY自転車」「僕の好きな風景」「真生ちゃんとポプラ並木」「卒業」などを歌いかつオシャベリぶりをくわしくお知らせしましたが、そのつづきは

『本当にみんなに応援されてね、最初は北海道だけだったね、それからドンドン地方へも出ていくようになって、オレのいう地方とは東京だぞ、出ていってみんなに応援されてチヨツと名前が売れてよ、あとは人気が落ちるのを待つばかりというのは好きでない、いまそれだけでおわつたりするのだからこそできることはいくらでもある、みんなにもいまだからできるというものがある、それに背いるものがある、それに背いきたいなあと思うんです、社会が悪いんじゃなく、大人の世界は汚ない

「この道より道廻り道」を歌い、拍手とチヤル、チハルの声援に応えて『まあねニューズ・レコードを作ったところ、いろんなこと、金もうけのためだとか、これがこの世界のようだ、そんなことしか考えられないのか、これが現実といえば現実かもしれないけれど、オレはこの世界に流されたくはない

『本当にみんなに応援されたいとか、大人の世界が汚ならしいと地方へも出ていくようになつて、オレのいう地方とは東京だぞ、出ていってみんなに応援されてチヨツと名前が売れてよ、あとは人気が落ちるのを待つばかりというのは好きでない、いまそれだけでおわつたりするのだからこそできることはいくらでもある、みんなにもいまだからできるというものがある、それに背いきたいなあと思うんです、社会が悪いんじゃなく、大人の世界は汚ない

「この道より道廻り道」を歌い、拍手とチヤル、チハルの声援に応えて『まあねニューズ・レコードを作ったところ、いろんなこと、金もうけのためだとか、これがこの世界のようだ、そんなことしか考えられないのか、これが現実といえば現実かもしれないけれど、オレはこの世界に流されたくはない



写真がおつぴらに掲載される研究会をつくっているのはオレたち一人々々です、オレたち一人々々が小さい力かもしれないけれど頑張っていけばよくなっていくんじゃないかと思う、そんなことをいうと生意気といわれるかもしれないけれど、一生抵抗していきます』(拍手)

『静かに 静かに眠れたら 今日はとってもいい日だね 静かに 静かに眠れたら』

の「今日限り」を歌ってから『どうもありがとう、こ

心でかたく祈つたはずの

んじやなく、自分の立場になつたとき二度と間違いはくり返したくないオレのつ

たとこと、汚ないなあと思うんだよね、思つたらつぎの時代にくり返さないでもらいたいなあと思います、この

験したという、いま騒がれている汚ない代名詞みたいにうけとられている大学ですが、松山さんと声をかけてくれた、どうしたんだとから正しいものを選んでもらいたいと思います、難しいつたら一浪してるというんです、どうしてもお前大学へいきたいか、けど浪人

あいだ東京から札幌へ飛行機のなかで、一浪して予備校へ通つて早稲田を受

露して、引きつづいて「大空と大地の中で」を歌い、満場の拍手と叫声の中で千春は『どうもありがとうございます、どうも最後までどうも…』とコンサートのおわりを告げたところ、チハル、チハルの声援が大きくなり『久しぶりのコンサートなので多少あがつてたりして、今日を皮切りに春のコンサートで全国をまわつてきます、よろしく…』といつて、アンコールに応えて五月に発売のLPから

「松山千春」の今夜はきめよう」の番組で、さきほど伊東ゆかりさんのために「作詩・作曲した機縁で、ゲストに招いて対談したもようはつぎのとおりでした。

千春 今晩お迎えしましたのは

ゆかり 今晩は、はじめまして

千春 本当にあうことなかつたですね

ゆかり そうですね

千春 オレはガキのころですね、一度お目にかかつたことがありますね『あなた出番です』という

ゆかり ありました

千春 すばらしい番組で

の「夢の中」を歌いながらそのなかで『チケット売り出しのときも吹雪だつたに

もかかわらず、この夜中まで聞いてくれてどうもありがとう、上の人もありがとう、下の人もありがとう、春は『どうもありがとうございます、どうも最後までどうもありがとうございます、またどこかで歌うからヒマがあつたらきてください、最後に元気でな、みんなのおかげで今夜は楽しかつたです、ありがとう』といつ

伊東ゆかりと対談

いまの人は多分判らないと思います、あれどのくらい前でしたつけ

ゆかり 十何年前でないかしら

千春 多分オレが小学校のころ、そのころ油が乗りもう一度切つて―そのころうちの姉貴がね、すごい好きでね、なんとかしてゆかりさんにあいたいあいたいといつてね、一番手つとり早いのが「あなた出番です」に出ればいいんだといつてオーディションをうけに北見へいつて結果は落ちましたけどね姉貴の影響でゆかりさんを知つたんです

ゆかり そうですか

千春 あれから十何年たつてますか

ゆかり イヤですわ

千春 「あなた出番です」はいまの番組でいうと「スター誕生」ですか、あそこまで下世話でないですけど

ゆかり いいんですか

千春 下世話ですよ、ザ芸能界というか、芸能界特有のオーディション番組ですよね、昔はもつと品格が―

ゆかり いまみたいでなくコントとかあつて

て

千春 ずうつとあつて、歌は「あなたが…」

ゆかり 「小指の思い出」のころ

千春 あのころは可愛い可愛いつて感じでしよう、いまの三人娘は榊原郁恵と石野真子と大場久美子ですか、オレなんかもつと古いですものね

ゆかり 男はご三家ね

千春 こうしてお目にかかるのはじめてなんですけど、真剣な感じで理屈つぽくて神経質な人かと思つたの

千春 いいですよ

ゆかり あつて安心しました、変つた人かと思つてたの

千春 この世界自体がアブ・ノーマルな世界だからノーマルな人間がこの世界に入るとアブ・ノーマルにみえるんでしようねえ、その代表が女では中尾ミエさん

ゆかり あの人も素直なのよね

千春 ノーマルだからそああいう世界に入るとアブ・ノーマルにみられたりするわけです、こんど歌を歌つて頂いて―

ゆかり ステキな曲で

千春 とんでもない、オレはコワかつたですね、や

つぱり、自分の曲が果して歌つてもらえるのかと思つて、その人のイメージをこわすことになるんじやないかと思つたりして、いままであまり人に歌つてもらうことはなかつたですね、このあいだ森進一さんに歌つてもらいましたね、そのときは歌つてもらいたいと思つたのと今回ですね、あとは適当に歌つてくれた方が何人かいますが

ゆかり 自分の歌がどういう風に変るかつていうことに心配あります

千春 それは全然ないです、はじめから自分は自分人は人の歌い方だという考えがありますからね、伊東さんのあの歌をきいてすごい都会つぽい、歌がうまいなあと思いました

ゆかり そうですか、雰囲気いいわけ声が高いハイ・トーンでしよう、本人が歌つた方がいいんじやないかしらつていう感じでねえ

千春 オレは男でしようどうしようもないところがある、そういう意味で今回歌つてもらつて女が歌えばこのように歌いこなせるんだなあ(以下裏面へつづく)

◆…なるべく家庭へもち込まないようにとーハダカとセックスがハンランする週刊誌などはここへ入れてください―各駅に回収箱を設置してあるほどなのにそんな心づかいはどこ吹く風とばかりに、大新聞という大新聞はすべてこうした週刊誌の宣伝に大きくスペースを割いています。

◆…新聞社側にすれば、あれは広告であつてワシヤ知らんということでしようが、しかし新聞は記事も広告も載せる以上は一体として責任をもつてもらいたいものです。

◆…いかに立派な社説なり評論なりをかかげても、一方では同じ紙面に俗悪な広告が載っているのでは〝百の説法へひとつ〟みたいなもので、大新聞が購読料よりも広告料に大きくオンなんのプラスになるというのでしようか。

◆…他人の私生活をのぞいてみたいという悪趣味の〝ノゾキ趣味〟に迎合するように、芸能人の私生活をやたらにとりあげる、「十八才未満の方は入場お断り」のポルノ映画のサワリ部分の

ニュースを斬る

こんな自由はほしくない！

なのでしようか。

◆…売れればいい、もうかればいいという立場からの〝文化〟ですから、宣伝文句はセンセイショナルに読む人の気を引きますが、内容はいずれも月並みな〝上げ底〟であることで、こんな自由はほしくないし、新聞や雑誌は売らん哉でなくもつと倫理観と指導性をもつてほしいことです。

つて辛いでしよう、お前が大人になつたときにその時代に味わせないでほしい、社会が悪いといつたつて社会をつくつているのはオレたち一人々々です、オレたちが小さい力かもしれないけれど頑張っていけばよくなっていくんじゃないかと思う、そんなことをいうと生意気といわれるかもしれないけれど、一生抵抗していきます』(拍手)

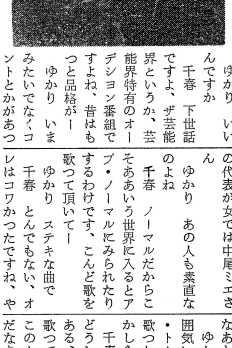
『静かに 静かに眠れたら 今日はとってもいい日だね 静かに 静かに眠れたら』

の「今日限り」を歌ってから『どうもありがとう、こ

胸を張つて歩いてもらいたい、オレは力いつぱい頑張つてだれにもどんなことにも負けたくはない、みんなも頑張つてください』

『たどり着けば いつもあふれる日ざし 私なりの愛が輝いていた 涙流す時はほほえむ時か 通りすぎてみれば すべてやさしい 大空高く私の 夢が 翼を広げて舞いあがる』

と、新曲「大空―翼を広げて」を披



露して、引きつづいて「大空と大地の中で」を歌い、満場の拍手と叫声の中で千春は『どうもありがとうございます、どうも最後までどうもありがとうございます、またどこかで歌うからヒマがあつたらきてください、最後に元気でな、みんなのおかげで今夜は楽しかつたです、ありがとう』といつ

「夢であえたらうれしいね 君の寝顔に頬よせる 僕の腕の中 眼をとじて夢の中」

と歌いおわるや満場の叫声のなかで『ありがとう』といつて、午後八時二十分に幕がおりました。

コンサートの日程

カツコ内はチケツトの取扱い所です。

五月

4日 桑名市民会館（サンデーフォーク）
5日 大垣市民会館
7日 豊橋市勤労福祉会館
8日 刈谷市民会館（リボン）
11日 高知県民会館
12日 丸亀市民会館
14日 木更津市民会館（サウンドクリエーター）
14日 新居浩市民文化会館
15日 八幡浜市民文化会館（BEA）
19日 堺市民会館
20日 明石市民会館
24日 大分市民会館
25日 鹿児島文化センター（オフイス・パンタ）
28日 根室青少年センター
30日 帯広市民会館

六月

1日 鳥取市民会館
2日 福山市民会館
4日 熊本市民会館
5日 長崎市公会堂（デユーク）
22日 奈良市文化会館
23日 大津市民会館（BEA）
27日 武雄市民文化会館（RKB）
29日 唐津市文化会館